

総 社 市 教 育 委 員 会 会 議 録

1 開 会 平成25年10月25日 午後4時 0分

2 閉 会 平成25年10月25日 午後4時57分

3 場 所 総社市役所保健センター2階 資料展示室

4 出席又は欠席した委員

出席委員

委員長 林 直 人

委員長職務代理者 米 谷 正 造

委 員 小鍛治 一 圭

委 員 下 山 洋 子

委 員 (教育長) 山 中 榮 輔

5 会議に出席した者

教育次長 松 尾 一 夫

参事兼庶務課長 三 村 和 久

学校教育課長 東 長 典

生涯学習課長 佐 近 昇

文化課長 谷 山 雅 彦

庶務課課長補佐 松 久 茂 喜

6 会議録署名委員

下 山 洋 子 山 中 榮 輔

7 議事の概要 別紙のとおり

開会 午後4時0分

林委員長 ただいまから教育委員会を開会いたします。

では、まず、会議録の署名委員についてであります。

会議録署名委員は、会議規則第19条の規定により、出席委員中、下山委員、山中委員の2名をお願いします。

この教育委員会には、議決案件が上程されておられませんので、まず教育長の報告からお願いします。

では、教育長の報告をお願いします。

山中教育長 前回の9月26日以降の主だったことについて申し上げます。

10月3日に、知事と市町村教育長との意見交換会がありました。これは90分間ありまして、知事が自分で司会をされました。趣旨は、県の重点課題は産業振興と教育再生ですが、教育再生については、具体的にそのアクションをとれるのは市町村の教育委員会。県の教育委員会は、人を派遣している。予算はあるけれども、具体的なアクションはなかなかとれない。つまり、責任と権限が分断されているため、協力してやっていかないといけない。それで、皆さん方の意見が聞きたいという話がありまして、いろんな意見が出ました。意見が出る前に5項目についてYES、NOで質問状がありまして、何に力を入れているか、学力向上なのかそれ以外かとかで、県の教育委員会は過干渉とか、もっと協力しろとか、知事に求めるものとか、それについて、大体YES、NOで分けて、それを知事が集約して、それぞれの教育長を指名して話を聞く。そういうやり方で、全員の話を聞こうと思うと、約30名ですから一人の持ち時間は3分なんです。だから、そういうやり方をせざるを得ないということでした。教育再生は県民の最も大きい声の一つだということで、知事は重点課題としてそれをやろうとするんですけども、予算がやはり限られていてお金がかけられないと。そこが問題で、とりあえず皆さんの意見を聞きたい。聞くけどお金はないよという話。それと、知事の考えには、人が足りないのはわかるけれども、じゃあ人を投入することで何がよくなるのか、どうなるのかというのをやはり明確に示してほしい。そうしないと、なかなか資源を投入できないというのが趣旨だったと思います。個別の話はいろいろありましたけれども、あれがほしい、これがほしいということが大半で、まずもう少し具体的にこれからどうするのかというのを県教委が皆とコミュニケーションを図って進めていかないと、しかも戦略を決めて重点的にやらないと、これはもう破産してしまうということになる。そういう印象を受けました。知事が16億円ぐらいしか自分の自由になる部分がない。それから、来年、県の職員の給料も、カットしている分を戻したいと思っている。そうすると、余計厳しくなるわけですけども、そんな中で何に重点を置くかというのをこれからやっていきたいと、意見を交換しながら決めていきたいというのが趣旨でした。第1回でしたので、意見が十分言えなかった人もいますけれども、皆不慣れで、特定の人が長く話して問題になったということもありましたけど、こういう場を何回か持ちたいという意思表示がありました。

それから、2点目は10月12日に国分寺サミットというのが津山でありまして、これは国分寺が所在する市の市長とか代表が集まって、自分のところのアピールをしました。それから、狩野先生の講演があって、なぜ国分寺ができたか、その時代の背景についていろいろ話がありまして、なかなか興味深かったです。

それから、10月7、8日と、恒例のだれもが行きたくなる学校づくりのサテライト研修をやりました。総社中央小学校と総社西中学校で2日間にわたって実施しました。私は総社中央小学校にしか行けなかったんですけども、いろんな活動ができていて、子どもたちもよく成長しています。礼儀正しいし、言語活動にも非常に力を入れていて、話をしても子どもたちの語彙が豊富だということが印象的でした。総社中央小学校はいろいろ課題もあるんですけども、落ち着いた感じでよかったです。

それから、幼稚園の訪問がほぼ終わりました。幼稚園の活動については、新しい法律が平成27年に施行されるわけですけども、それに向けて幼稚園としてはどういうふうな特色というか、何に重点を置いていくのか、どういう進め方をするのかというのを検討しているんですけども、なかなかまとまらない。端的に申し上げて、預かり保育をやりたいというぐらいの話しか出てこない。遊びを通して子どもを育てるというのは、もう少し具体的に定量化して目標設定するというのを、子どもたちの育ちを評価するというのをしないと、園以外の人にはわかりにくい。いいチャンスだからそういう努力をしましょうというふうに言っています。今週初めに、井尻野幼稚園と総社北幼稚園で研究発表会がありました。ここに、ノートルダム清心女子大学の梶谷敬子准教授が来ておられまして、いろいろ指導を得てやっています。幼稚園はいろんな活動をしているんですけども、なかなかアピールできない。というのは、定量化ができていないといいますが、頑張ってますだけではなかなか理解してもらえない。そういう活動が皆に理解され、アピールできるような方法を一緒にやりませんかという提案をしましたら、ぜひやりましょうということになりました。読み聞かせとか読書をやることによって、子どもたちの育ちがすごく目立ってよくなるけれども、幼・小が連携して、そういう子どもたちの育ちを評価していく。ちょうど今だれもが行きたくなる学校づくりで、この活動の成果を広島大学の栗原教授に定量的に表していただいています、幼稚園にも同じようなやり方を取り入れていきたい。栗原先生も、幼稚園に力を入れるべきだとおっしゃっているのと、幼稚園の先生方もぜひだれもが行きたくなる学校づくりをやってほしいというのがありまして、幼・小の連携もありますので、ぜひこれは来年に向けてやりたいということで、これから少し具体論も進めるように、今スタートしたところです。

それからもう一点、今日、先ほど知事と40分ほど面談をしました。知事から、総社市の教育について聞きたいという話がありました。今やっていることと、それからどういうことが課題かというのをいろいろ意見交換してきたところです。まだ1回だけではよくわからないので、これからもコミュニケーションを図りましょうということになりました。どうしてこういうミーティングになったかと言うと、私の思いもあるんですけども、知事は教育現

場に関する知識はほとんどゼロ。データもないし、私も全くゼロの状態です。民間から入ったのと立場がよく似ているので、どういうアプローチをしたか、何をしているかというのが参考にならないかと思われたからじゃないかと思います。それともう一点は、今学力向上で原因の定量分析と対策を実施していますが、我々が県の事務局と最初に連携がうまくできたということで、総社の学力向上対策の情報が、割合知事にストレートに入っているんじゃないかと思うんですね。そんなこともありまして、いろんな話をしてきました。

以上です。

松尾教育次長 実はもう皆さんご承知かもわかりませんが、今日閣議がありまして、高木聖鶴先生が文化勲章を受章されたということで、今日昼一くらいで報道各社が流していると思います。これはもうご承知のとおり、日本の中でも年間に数人というような素晴らしい勲章であるということで、早速総社市として市民を挙げてお祝いをしていただかないといけないという機運になっておりまして、今後いろんな形で高木先生を顕彰していくということになろうかと思っております。それで早速、今日実は市役所の市長のところの廊下が2階にございまして、あそこを全部高木先生の書で展示をして、「文化勲章受章おめでとう」というようなパネルも貼ってやっております。それから、玄関に記帳所を設けて、お祝いの記帳ができるようにもさせていただいております。それで、月曜日に朝9時から「受章おめでとう」という懸垂幕を、総社市役所と総社駅前には垂らすという計画にしております。それから、高木先生の書を総社市に103点、巻物とか額装したものとか、いろんなものをいただいておりますので、これを皆様にこの機会に見ていただくような形も考えておりますが、なかなか素晴らしい物ですので、どこでもというわけにはいきません。民間のサンロード吉備路で一度展示会もしたことがあるんですが、急なことですので、ことしあたりは土日を挟んで1週間とかというスパンではとれないんです。それもなかなか難しいということがございまして、今計画しておりますのは、高木先生の意向も踏まえないと、まだ確定はしてはおりませんが、祝賀会ということではなくて、祝賀記念式典というようなことを市民会館を使ってできるだけ早急に、できれば11月中旬に市民会館で参加できるような形で、市民会館で祝賀式典をし、その四日前から市民会館のロビーへ高木先生の書を展示して顕彰するという辺まで今考えております。それから、これはまたちょっと先になりますが、吉備路文化館というのが、郷土館を改修して4月1日にオープンする予定にしておりますので、そこがオープンしたら、教育委員会としては、まず一番に高木先生の書を展示して、1カ月ぐらいのスパンで顕彰するような展示会も企画していきたいというふうに、今の時点で読んでいるのはそれぐらいということで、市民の方々皆さんでお祝いをしたいということですので、そういうまた式典等がございましたらご案内もさせていただきますので、いろんな方をお誘いをしていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

林委員長 ただいま教育長、教育次長からの報告があつたんですけれども、何かお尋ね等がありましたらお願いします。

米谷委員 先ほどの幼保の話ですけど、定量化していく項目というのはどういうものですか。

山中教育長 例えば、園ごとの目標があるわけですね。園ごとに何か特色を出したいということがありまして、例えば運動がよくできる子とか。ただ、運動ができる子だけでは駄目で、頑張って50m走れるとか何かそういうものをもう少しわかりやすくする。そういう項目を栗原先生と相談しながら少し評価方法を考えたらどうか。例えば、「挨拶ができる子」と書いてあるんですけど、挨拶ができるといってもいろんなステージがあって、「こちらから挨拶をしたら挨拶ができる子」、「主体的な挨拶ができる子」。挨拶の言葉の内容も「おはよう」と「さよなら」だけじゃなしに、もう少しいろんなレパートリーで言える子。それから意思疎通ができる子。そういういくつかのステージに分けて、それを先生方が自分たちで評価してどうなるのかとか、定性的なものを定量化する努力をしないと、進化がわからないと。市長にいろいろお金を出してください、こういう活動をしますからと言っても、市長の反応はよくわからないんですよ。学力はわかる。学力だったらお金を出そうと、そういうこともありますので、一般の人もそうなんです。だからいろんな意味で、園とか学校とかの活動の中身、結果がなかなか見えにくいので、公表しろという動きがどんどん出てくる。それに対して、我々がこういうことをやっているというのを全部は無理ですけれども、何か自分たちの園で持っている特色を、皆にわかるようにそういう努力をしたらどうかと。そういうふうになれば、論文にもなりますし、学会にも発表できるだろうと思います。

下山委員 山田幼稚園、維新幼稚園のことがこの間広報そうじゃにも出ていましたけれど、それが山田と維新の特色だと思うんですけど、広報に出してから何か反響がありましたか。

東学校教育課長 山田幼稚園、維新幼稚園の広報そうじゃに載った件ですけども、こちらのほうへ問い合わせが一本ありました。具体的に言うと、山田幼稚園に割と近い地域の、今度3歳児になるお子さんをお持ちの保護者の方が、興味があるんですけどどうでしょうかというふうなお尋ねの電話をかけてくださっています。お名前等も名乗られて、具体的に考えているということでした。

小鍛治委員 私は、保護者ということでこの間井尻野幼稚園の発表会に行かせていただいたんですけども、三年前に息子が入園した時に、初めてでしたから、なぜこの子がちょっと問題がありそうなのに放っておいたりとか、ふらふらしている子とかたくさんいて、その保護者じゃなくて、周りの保護者の方もやはり不安なんです、わからないから。だけど、昨日の資料とかこの間の資料とかを見させていただいたら、こういうねらいがあってこういうことを取り組んでいるという。でも、それは非公開といいますか、保護者には全く伝えてないですから、自分の子どものことは考える、よその子どものことに関しても、やはりわかりにくくて不安なところがあると思うんです。だけど、そういうねらいがあるんですよというのを保護者の方に伝えていただいたら、それは一つ明確なことじゃないかなあとと思います。それと、やはり一番はコミュニケーションがとれてないといけないのかなあとと思います。やはりわからないところが多いですから。専門の方でしたらわかると思いますけど、例えば

目標が「元気な子」，それを願っていることはわかるんですけども，それは当たり前のことだと思います。

米谷委員 新学習指導要領の中に体験学習，「体験」という言葉が非常に多く使われているんですけど，今先ほどのコミュニケーションというところで，我々の領域からいうと，言葉だけのコミュニケーションは子どもたちはなかなかできないので，身体とか動きであるとか，そういうことを通じてそれを言語化していくという習慣をやはり子どものころからつけて，それは挨拶であるとか何でもいいと思うんですけど，そういう活動を通じてやるとか，あと食の体験とかで食べ物の大切さを知るとかというのも，やはりそこに根本的な問題があるので，そういう部分からも，「元気」を具体的にどう説明していくかという時にでも，そういうことができるんです。生活の中でそういうことが実際に体験できるということも大事なかなというふうに思います。

山中教育長 幼稚園の先生方は今までそういうことを考えたことがないので，私がこういうことを言うと，最初は拒否反応だったんですけども，この前，梶谷先生にお話をしたら，ぜひやりましょうと言っていただいて，私もこれで抵抗が少し減りました。私は大学と一緒にやらないと，学校とか園だけではとてもやれるようなレベルではないと思います。端的に言うと，園長先生も論文を読むにも論文がない。どこかの園に研修に行くとしても，定量的な情報が少なく，データとして蓄積できない。だから，徒弟制度みたいな感じで，幼稚園の先生の教育のやり方の必要最小限の標準的なものもないわけです。ですから，幼稚園の教育を皆に見えるようにするには，まず評価を定量化することが大切だと思います。

林委員長 次に，事務局から報告事項等がありましたら，お願いします。

佐近生涯学習課長 河川敷グラウンドの貸出料金について説明した。

松尾教育次長 消費税増税に伴う施設使用料の見直しについて説明した。

米谷委員 3%から5%に上がった時はどうだったんですか。

松尾教育次長 これは3%の時には賦課してないんです。5%の時に初めて賦課したというふうな記憶でございます。

林委員長 市民の公の施設の利用について配慮をしたほうがいいんじゃないかなあと思った時には，やはり値上げをするのを少しずらして，できるだけスムーズに移行させると。ですから，先ほど言われたように，3%の時はとらずに5%の時にとったと，今だったら中途半端になってしまいますから，10%の時からとらしてもらいますよという形で少しずらすのも考え方かなあと思います。

松尾教育次長 その時にはやはり，そういう考え方でいくと，指定管理者のほうへは使った1年間で収入があれば，その3%というのは市民の負担ではなくて，使う人，使わない人に関わらず，市全体の皆さんの税金の中からその分を補填してあげないと，ちょっと向こうの経営のほう辛いかなあ。出すほうは上乘せして出すのに，入になるべきものがと。それはちょっと配慮してあげないといけないかなあ。再来年の7月からは10%になると

ということですから、1年ちょっとの間だけ、そういうふうな考え方もありなのかなあという気もするんですけどね。

林委員長 ただ、そうでなくてもいろんなところが上がるのに、そういった公共施設までそのままストレートに来るのかといった時にどう対応するのか。

山中教育長 だから、皆の税金で負担しますか、それとも受益者負担にしますかということと言わないといけないと思いますね。だから、議会にもそういうふうに提案すると。どちらを取りますか。全体に受益者負担にするのか、そうじゃなしに市民の税金から補填するのか、どっちをとるんですかという。ただ、本来の消費税の趣旨から言うとおかしいですよ。

米谷委員 これは最終的に市の全てのものに関して統一したものにするわけですよ。ただ、教育委員会としてはどういう意見かということですよ。

松尾教育次長 そういうことですね。上下水道は、100分の105を100分の108にするという方向は聞いているんですが、他の施設の使用料、市長部局等で持っているところについては、まだやらないという各課の方針なのか、全体としてはまだまとまってないです。

小鍛冶委員 どっちにしても反対意見が出ると思うんですよ。だけど、その時にちゃんと答えられないと。だから、言ってみたら100円のところを103円にして小銭がどうのこうのと言っても、1円もお金ですから。だけど、その反対に使ってない人にも負担があると絶対反対意見が出る。その時に答えられないと思うんですよ。

米谷委員 もう一つは、元々の値段の設定の根拠というのがわからないですね。

松尾教育次長 これも5%がかかった時の金額が基本ベースになっているんで、その時の基本ベースが、消費税を入れる前の金額はどうやって決めたのかというと、今までの中から決めてきて、物価上昇率とか何とか掛けて、端数を切ってというような話を何回も繰り返してきておりますので、もうはっきり言うと何の根拠もないという、今では数字になっていると思います。元々ペイできる、これだけ金額がかかるから入でこれだけもらうために、逆算すると人数をこれだけ使うから何円に決めたということにはなっていませんので、公共施設の場合。ですから、基本的な根拠は何もありません。もう今までの積み重ねの中で決まっている金額だと。でも、端数を切ったりしていますので、その辺は曖昧と言えば曖昧です。

米谷委員 使用者の立場に立てば、1桁台で持っていくというのは現実的ではないと思います。特に身体を動かさず場合、なるべく持ち物を持ちたくない時に、108円持っていくというのは、ちょっと現実的ではないなあと思います。

松尾教育次長 そういう細かいお金になると、今度は受け側も、いろんな経理で現金をやるの間違うもとなるので、できるだけそういう1円単位というのはしたくない。事務の手数がかかるんで。それなら、3円、5円なら事務の手数がないほうがかえってスムーズに行くので、やめたほうがいいかなあという感じで今まで端数を切って切ってというので、せめて10円単位、10円も余りないかもわからないですね。

佐近生涯学習課長 大体50円単位とかが多いですね。

下山委員 この施設にしては初めてのことで、使ってもらいたいという目当てがあるので、やはり当分は8%の時はもう上げずに、そのままいくのがいいのかなと思います。

林委員長 どうしても端数でいくということになった時には支払い方法、今は電子マネーじゃないですけどありますから、I C O C Aとかいろんなものが。それでも支払えますよというふうな形にして、ちょっと便利にしてやることができれば、受け入れてくれるのかなと思います。

林委員長 他にございませんか。

(なし)

林委員長 では、次回の教育委員会の日程についてであります。既にご承知のとおり、11月26日(火)午前9時30分から開催いたしますので、ご参集願います。

この際、12月の教育委員会の日程について事務局から提案願います。

(12月の教育委員会について日程調整)

林委員長 では、12月の教育委員会は、12月19日午前10時から開催いたします。

では、これで審議がすべて終了いたしましたので、本日の教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後4時57分